



知っておきたい

# 夏に流行する感染症

夏に流行しやすい主な感染症についてまとめました。プールに入っているかどうかは、かかりつけ医に相談しましょう。



## プール熱 (咽頭結膜熱)

39℃前後の高熱が4~5日続く。

ウイルス性の感染症で夏かぜのひとつ。せきやくしゃみなどによる飛沫感染のほか、目やにや便からも感染する。



目やに、目の充血がある。

せきが出て、のどが赤くはれて痛む。

頭痛、吐き気、腹痛、下痢を伴うこともある。

対処法

- タオルの共用は避け、感染者の使ったタオルなどは、熱湯消毒した後洗濯しましょう。
- 水分補給は十分にし、口当たりの良い食べ物を与えましょう。

出席停止期間 主要症状が消えてから、2日を経過するまで。

## ヘルパンギーナ

39℃前後の高熱。

ウイルス性の感染症で夏かぜのひとつ。せきやくしゃみなどによる飛沫感染、便に出たウイルスで感染する。



のどに小さな赤い水疱ができ、のどが痛むため食欲が落ちる。

水分補給をいやがり、脱水症状を起こすこともある。

対処法

- のどの痛みが強いため、熱い物や冷たすぎる物、酸味のある物や塩味のきつい物など刺激の強い物は避けましょう。
- 痛みが激しいときは、かまずに飲み込める物にしましょう。
- しっかりと水分補給をしましょう。

出席停止期間 熱がなく、ふつうに食事ができるまで(解熱後1日以上経過)。

## とびひ (伝染性膿痂疹)

皮膚の細菌による感染症。水疱が破れて汁が出た皮膚に触れると、接触感染する。



湿疹や虫刺されのあとをかくことで、米粒大の透明な水疱ができ、しだいにうみを持って、かゆくなる。

かいたり服がこすれたりして水疱の膜が破れると、中の菌を含んだ液が飛び散り広がる。

対処法

- 水疱の中の菌がほかにうつらないように、ガーゼなどで覆い、医師の診断を受けましょう。
- つめは短く切りましょう。
- 感染者とタオルなどの共用はやめましょう。

〈登園のめやす〉

皮膚が乾燥しているか、汁が出ている部分をガーゼなどで覆うことができる。

皮膚が乾燥し、  
完治してははり  
水あそび・プールOK!!

70-100... X  
水あそび...要相談

## はやり目 (流行性角結膜炎)

ウイルス性の感染症。プールの水を介した感染や、接触感染する。

白目が真っ赤に充血する。目が開けられないほどはれ、涙が出る。



まぶたの裏に小さなブツブツができ、異物感を感じる。

耳前リンパ節ははれて熱が出ることもある。

炎症が結膜だけでなく、角膜まで及ぶ。

対処法

- 目を触らせないように注意し、せっけんでしっかり手を洗わせましょう。
- 目に触れる物の共用は避け、感染者が触った物は、せっけんで洗ったり、消毒したりしましょう。

出席停止期間 結膜炎の症状が消失し、医師が周囲への感染がなくなったと判断するまで。

## 手足口病

38℃前後の熱。

ウイルス性の感染症で夏かぜのひとつ。せきやくしゃみなどによる飛沫感染のほか、便に出たウイルスで感染することがある。



口の中にも水疱ができる。痛みがあり、水疱が破れると食欲が落ちる。

手のひら、足の裏、体に周囲が赤くて真ん中が白い楕円形で米粒大の水疱ができる。痛みやかゆみはない。

対処法

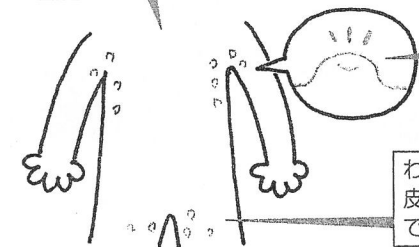
- 薄味で口当たりのよい食べ物を与えましょう。
- 食後はぬるめのお茶を飲ませて、口の中をきれいにしておきましょう。
- しっかりと水分補給をしましょう。

出席停止期間 熱がなく、ふつうに食事ができるまで(解熱後1日以上経過)。

## 水いぼ (伝染性軟属腫)

ウイルス性の感染症。皮膚病のひとつ。タオルやビート板の共有、肌が触れ合うなど接触感染する。

かゆみや痛みはない。



1~2mm程度のブツブツができる(真ん中にへこみがあり、硬くてつやがあり、皮膚と同色)。しばらくすると3~4mmになる。

わきの下、わき腹、足の付け根など、皮膚と皮膚がこすれ合うところによくでき、体中に広がる。

対処法

- ほうっておくと体中に広がるので、ひとつでも水いぼを見つけたら、医師の診断を受けましょう。
- タオルやビート板などの共用は避け、プールの後は体をよく洗い流しましょう。

〈登園のめやす〉

滲出液が出ているときや、露出している部分には「絆サセ」を貼る。

耳・頭部にも注意しましょう!!

感染症予防

3の原則

①手洗いうがいをしよう



②せきが出るときはマスクをしよう



③早起き・早寝をしよう



## 急性中耳炎



主な症状

- \* 粘っこい、黄緑色の鼻水が続く。
- \* 耳に激しい痛みがあるため、泣いたり耳に手を当てたりしている。
- \* 黄色い耳だれが出ることもある。

対処法

- プールでの感染はないが、耳鼻科で治療を受け、症状がある間はプールは避ける。

## しん出性中耳炎



主な症状

- \* 耳が聞こえにくくなるため、呼んでも返事をしなかったり、何度も聞き返したりする。
- \* 痛みや発熱など目立った症状はないため、気づきにくい。

対処法

- プールでの感染はないが、痛みや発熱がある場合は、プールは避ける。
- かかりつけ医に確認を取り、症状が安定していればプールに入ってもOK。

## アタマジラミ



主な症状

- \* 頭のかゆみや不快感。
- \* 症状のないことが多い。

対処法

- プールでの感染はないが、水泳帽を着用する。
- タオルやくしなどの共用は避ける。
- シーツ、枕カバー、パジャマなどの洗濯、カーベットの掃除をこまめにする。

暑い日が続く、子ども達も疲れやすくなります。夏は、泥んこ・プール・水あそび...と魅力的な遊びがいっぱい♪ 夏ならではの遊びを存分に楽しむよう、休息・栄養をしっかりと、感染症を予防しましょう。

